

## 2021年3月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答要旨

### 《2Q業績》

Q：中国のTPMSについて、2Qの売上高はどうなっていたか教えてほしい。

A：当社TPMSはトヨタ中心に販売しており、中国トヨタの生産は、ほぼ回復している。TPMSはバルブ事業セグメントに入っており、バルブ事業の前期比売上としては、2Q全体では落ち込んでいるが、TPMSだけを取り出すと、前年同期並の売上となっている。

### 《下期業績予想》

Q：プレス事業について、下期の利益前提はどのようにイメージすればよいか。来期に向けた示唆として、社内での見方があれば教えてほしい。

A：今回の業績予想の前提となるトヨタ生産台数は、上期125万台、下期165万台、年間290万台としている。下期は、上期のコロナ影響で、トヨタ国内で稼働停止になった5日間程度を、休出して挽回することを織り込んだ生産台数となっている。来期については、まだ確定できる情報はないが、国内下期の状況165万台が来年も続くと仮定すると、年間で330万台ということになるので、そこまでの回復にはならないと考えている。

Q：バルブ事業について、3Q・4QはTPMS、およびその他バルブ事業の回復は見えてきているか、教えてほしい。

A：バルブ製品事業は、2Q回復しているが、特に中国が回復している。TPMS市場はアメリカと中国が中心になるため、2Qの期間で前期並の売上を計上できた。他のタイヤバルブや、制御機器の事業は、2Qではまだ前年比マイナスになっているが、TPMSも含めたバルブ製品事業全体では3Q、4Qで概ね前年並みまで回復してくる前提で予想している。利益率では、バルブ製品事業の中でTPMSの利益率が若干高く、バルブ製品全体の利益率を押し上げる効果になっている。

### 《アフターマーケット向けTPMS》

Q：アメリカのアフターマーケット向けTPMSについて、2020年11月より販売開始とのことだが、どれぐらいの市場規模か、どの程度売上高が見込めるか教えてほしい。

A：アメリカのTPMSアフターマーケット市場としては、年間で1,000万個から1,500万個ぐらいの間にあると考えている。アフター向け製品の開発は順調に進んでおり、後は販売するだけの状況である。今のコロナ禍で、拡販が難しい環境にあるため、目標値を掲げにくい状況であり、現地の販売の動向を見ながら、逐次具体的な数字を社内で作っていく。

Q：アフターマーケット向けの販路は確保できているのか、具体的に状況を教えてほしい。

A：実店舗での販売としては、現地のホールセラーや、部品商などに商品を提案して進めている。また、専用のウェブサイトを立て上げ、ウェブでも販売できるよう準備をしている。

以上